



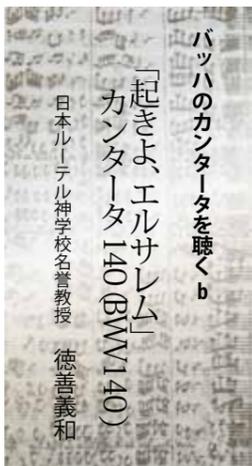
教会暦の一年が終わりに近づく頃、現在の聖書日課のA年には福音書日課としてマタイ二五章一節以下が読まれる。パツハの時代この福音書は三位一体後第二主日(聖霊降臨後で数える)と第二主日(八主日)に朗読されることになっていたので、復活日が春分の日(のすぐ後)に来る年であれば朗読されなかった。パツハのライプツィヒ在任中にはその機会は一七三一年と四二年の二回だけだったが、このカンタータはこの福音書に基づいて一七三一年に作曲、初演され、四二年に再演されたことだろう。

この福音書日課は教会暦の一年の終わりに、信仰の姿勢に注目することを求めている。主の時を永遠を思い、その主のみ手の中での自らのいのちの限りある終わりを思うのもよいのだ。この福音書日課に基づいて一



五九九年にフィリップ・ニコライが作詞作曲した三節からなるコラール(教会讃美歌137)もまた有名である。このコラールを第一、四、七曲に配したコラールカンタータとして、このカンタータ140番は名曲と認められていて、シンメトリーに配された七曲の中心である第四曲は、コラール第二節を歌って、主を迎えて喜んで宴に集うおとめらの喜びが中心となるのだから、テナーのソロに合せて、私たちが教会讃美歌137番を広げて、共にこの第二節を口ずさみながら相和してもよいだろう。

このカンタータはパツハ自身の意に合ったものひとつだったに違いない。他のカンタータからの曲と共に晩年のパツ



「パツハのカンタータを聴く」
「起きよ、エルサレム」
カンタータ140(BWV140)
日本ルーテル神学校名誉教授 徳善義和

ハは計六曲をオルガンのためのコラール前奏曲に編曲して出版し、このコラール前奏曲(BWV645)を冒頭に置いた。その元になったのがこのカンタータ140の第一曲である。カンタータでは、見事に展開され反復される器楽伴奏の間に、合唱がコラール第一節を各行毎に歌って美しい。これがオルガン曲に整えられたとき、パツハは結婚式用音楽を書いている(H.ケラー)と言われる。味わう点の多々あるコラールであり、カンタータなのである。



第14回ルーテルこどもキャンプ報告
キャンプ長 室原康志
去る8月7日から9日にかけて、広島教会を会場に「第14回ルーテルこどもキャンプ」が行なわれました。全国からキャンパー(小学5、6年生、スタッフ総数59名)が集められ、充実した時間を過ごすことができました。今回の「ヒロシマ」キャンプの主題聖句は、「平和の子がそこにいる。あなたの子がそこにいる。あなたの子がそこにいる。」



相反するテーマの問いかけによって、こどもたちは「戦争がなぜ起こるのか」、「正義」という言葉は何を意味するのかを考えた。大きな問いかけに戸惑いながら、こどもたちは猛暑の中、平和の門や原爆資料館、原爆供養塔、原爆ドームなどを歩いて回りながら、それぞれにいろいろな事を感じていました。特に今回は、「原爆の子の像建立と「原爆ドーム」保存に至った経緯を知り、小さな働き者でも「平和の子」としての力が備えられている事をこどももおとなも共に学びました。知識として蓄えることも大切ですが、現地で

感じ取った経験が、これから未来へと成長していくこどもたちの中でしっかりと根付くことを願っています。また、このキャンプを通して、全国の仲間とのつながりができ、良い体験となったのではないかと思います。こどもたちやスタッフを送り出してください。各地の教会・教会、会場を快く貸して下さい、食事をはじめ、多くのお世話をしてくださった広島教会と女性会の皆さま、そして、キャンプのために祈り、ご支援くださった全国の皆さまに心より感謝申し上げます。

今年、こどもたち、かつてのキャンプ参加者であったこどもたちがスタッフとして帰ってきた。成長した姿を見せてくれて、神さまのお導きに深く感謝です。こどもたちやスタッフを送り出してください。各地の教会・教会、会場を快く貸して下さい、食事をはじめ、多くのお世話をしてくださった広島教会と女性会の皆さま、そして、キャンプのために祈り、ご支援くださった全国の皆さまに心より感謝申し上げます。

今年、こどもたち、かつてのキャンプ参加者であったこどもたちがスタッフとして帰ってきた。成長した姿を見せてくれて、神さまのお導きに深く感謝です。こどもたちやスタッフを送り出してください。各地の教会・教会、会場を快く貸して下さい、食事をはじめ、多くのお世話をしてくださった広島教会と女性会の皆さま、そして、キャンプのために祈り、ご支援くださった全国の皆さまに心より感謝申し上げます。

たがたの願う平和はその人にとどまる。(ルカ10:6)でした。平和とはどのようなことを意味するのかを深く考えるために、「戦争」という言葉を聞いた時に何を想像するか?という問いかけからキャンプは始まりました。相反するテーマの問いかけによって、こどもたちは「戦争がなぜ起こるのか」、「正義」という言葉は何を意味するのかを考えた。大きな問いかけに戸惑いながら、こどもたちは猛暑の中、平和の門や原爆資料館、原爆供養塔、原爆ドームなどを歩いて回りながら、それぞれにいろいろな事を感じていました。特に今回は、「原爆の子の像建立と「原爆ドーム」保存に至った経緯を知り、小さな働き者でも「平和の子」としての力が備えられている事をこどももおとなも共に学びました。知識として蓄えることも大切ですが、現地で

今年、こどもたち、かつてのキャンプ参加者であったこどもたちがスタッフとして帰ってきた。成長した姿を見せてくれて、神さまのお導きに深く感謝です。こどもたちやスタッフを送り出してください。各地の教会・教会、会場を快く貸して下さい、食事をはじめ、多くのお世話をしてくださった広島教会と女性会の皆さま、そして、キャンプのために祈り、ご支援くださった全国の皆さまに心より感謝申し上げます。

今年、こどもたち、かつてのキャンプ参加者であったこどもたちがスタッフとして帰ってきた。成長した姿を見せてくれて、神さまのお導きに深く感謝です。こどもたちやスタッフを送り出してください。各地の教会・教会、会場を快く貸して下さい、食事をはじめ、多くのお世話をしてくださった広島教会と女性会の皆さま、そして、キャンプのために祈り、ご支援くださった全国の皆さまに心より感謝申し上げます。

今年、こどもたち、かつてのキャンプ参加者であったこどもたちがスタッフとして帰ってきた。成長した姿を見せてくれて、神さまのお導きに深く感謝です。こどもたちやスタッフを送り出してください。各地の教会・教会、会場を快く貸して下さい、食事をはじめ、多くのお世話をしてくださった広島教会と女性会の皆さま、そして、キャンプのために祈り、ご支援くださった全国の皆さまに心より感謝申し上げます。

今年、こどもたち、かつてのキャンプ参加者であったこどもたちがスタッフとして帰ってきた。成長した姿を見せてくれて、神さまのお導きに深く感謝です。こどもたちやスタッフを送り出してください。各地の教会・教会、会場を快く貸して下さい、食事をはじめ、多くのお世話をしてくださった広島教会と女性会の皆さま、そして、キャンプのために祈り、ご支援くださった全国の皆さまに心より感謝申し上げます。

今年、こどもたち、かつてのキャンプ参加者であったこどもたちがスタッフとして帰ってきた。成長した姿を見せてくれて、神さまのお導きに深く感謝です。こどもたちやスタッフを送り出してください。各地の教会・教会、会場を快く貸して下さい、食事をはじめ、多くのお世話をしてくださった広島教会と女性会の皆さま、そして、キャンプのために祈り、ご支援くださった全国の皆さまに心より感謝申し上げます。

今年、こどもたち、かつてのキャンプ参加者であったこどもたちがスタッフとして帰ってきた。成長した姿を見せてくれて、神さまのお導きに深く感謝です。こどもたちやスタッフを送り出してください。各地の教会・教会、会場を快く貸して下さい、食事をはじめ、多くのお世話をしてくださった広島教会と女性会の皆さま、そして、キャンプのために祈り、ご支援くださった全国の皆さまに心より感謝申し上げます。

今年、こどもたち、かつてのキャンプ参加者であったこどもたちがスタッフとして帰ってきた。成長した姿を見せてくれて、神さまのお導きに深く感謝です。こどもたちやスタッフを送り出してください。各地の教会・教会、会場を快く貸して下さい、食事をはじめ、多くのお世話をしてくださった広島教会と女性会の皆さま、そして、キャンプのために祈り、ご支援くださった全国の皆さまに心より感謝申し上げます。



牧師の声

メコンミッションフォーラム (MMF) に参加して
2012年5月16～20日 於 ミャンマー・ヤンゴン
東京教会 関野和寛

メコン河が流れるカンボジア、タイ、ベトナム、ラオス、ミャンマーの宣教のサポートをするメコンミッションフォーラム(MMF)が毎年開催されています。これらのメコン流域の教会の代表者と、支援国アメリカ、オーストラリア、ドイツ、フィンランド、ノルウェー、香港、マレーシア等の教会の代表者が集い共に宣教協力の為に話し合いが行われます。

このような証しをほじめとし、メコンミッションフォーラムでは支援する事だけでなく、現場から先進国(キリスト教)を含む国(キリスト教)と呼ばれる教会が忘れてしまっている多くの事を学ぶ

今年、夏は多くの方が「どなりびと」で貴重な体験をされました。今月号では、その中からお二人の方の体験をご紹介します。『ボランティア体験を通して』 聖書学園高等学校2年 江口 夏子

た。辛さを一人で抱えて生きる現実を仮設住宅の方々との出会いを通して知り、そのような環境の中で生活していただけるのに、仮設住宅の方々には「ありがとう」「御陰さま」「支えられています」と感謝を言葉にされ、私たちの手伝いを選んで下さる姿がとても心に残りました。語り部の方がお話しくださった「人間は屋根や食料があっても生きられないものではない。人と人とのつながりの中で初めて生きることができ」という言葉が今も心に響いています。自分にとって、被災地で働かされている方がいる事、神様から祈る事を与えられていることを心強く感じます。これからも被災地に思いを寄せながら祈り続けていきたいと思います。

信徒の声

神様からの招き

東海教区 信徒常議員 櫻井 隆

2012年度東海教区総会において齋藤幸二牧師が教区長に選出されると、先生は私に「信徒常議員として協力してほしい」と声をかけてくださいました。私は、その役割にふさわしい者であるかどうかを考える間もなく、「はい」と答えていました。振り返れば、イエス様の招きに応じていった弟子たちのような心境であったかもしれない。

このような証しをほじめとし、メコンミッションフォーラムでは支援する事だけでなく、現場から先進国(キリスト教)を含む国(キリスト教)と呼ばれる教会が忘れてしまっている多くの事を学ぶ

今年、夏は多くの方が「どなりびと」で貴重な体験をされました。今月号では、その中からお二人の方の体験をご紹介します。『ボランティア体験を通して』 聖書学園高等学校2年 江口 夏子

た。辛さを一人で抱えて生きる現実を仮設住宅の方々との出会いを通して知り、そのような環境の中で生活していただけるのに、仮設住宅の方々には「ありがとう」「御陰さま」「支えられています」と感謝を言葉にされ、私たちの手伝いを選んで下さる姿がとても心に残りました。語り部の方がお話しくださった「人間は屋根や食料があっても生きられないものではない。人と人とのつながりの中で初めて生きることができ」という言葉が今も心に響いています。自分にとって、被災地で働かされている方がいる事、神様から祈る事を与えられていることを心強く感じます。これからも被災地に思いを寄せながら祈り続けていきたいと思います。

るうてる 特集



ルーテル教会救援 JLER

活動報告

発行所 日本福音ルーテル教会事務局広福室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町1-1
電話 03-3260-8631



仮設住宅でのベンチ作り



前浜コミュニティセンター建設のための木材乾燥作業

2011年3月11日の東日本大震災の発生後、ルーテル4教団の議長の下に設置した「東日本大震災ルーテル教会救援」(JLER)の働きも一年半を過ぎましたが、神の恵みと導きにより、各個教会・施設、ルーテル四教団、それに世界の教会からの協力と支援も得て、実りある支援活動が継続できていることを心より感謝いたします。

震災と津波の被害から二年目を迎えても、愛する人を失い、いまだに将来の生活のめどが立たず、苦しみと悲しみの中

にいる方々の心の痛みは、いまだ癒えていないと思えます。キリストの愛と奉仕に基づき、私たちのJLERの支援活動が少しでも被災地域の人々の助けとなり、将来に向けての新たな希望の道を開くための働きとなることを祈ります。

前浜地区のコミュニティセンター再建プロジェクト
石巻漁業作業倉庫支援プロジェクト
\$ 仮設住宅でのボランティア派遣活動の展開
% 被災地の物品販売支援

JLERの支援活動が現地において「キリストにおける愛の奉仕」の業に沿ったふさわしい事業活動を実現していくためにも、各個教会・諸施設のご協力と一層のお祈りを今後ともよろしくお願いいたします。

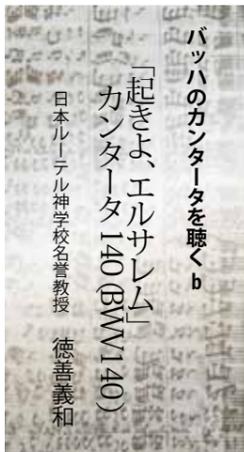
石巻仮設・夏祭り 真夏の被災地風景

キリストにおける愛の奉仕の業として

本部長 青田 勇

ルーテル教会救援・活動スケジュール

Activity schedule table with columns for years (2011-2014) and rows for disaster relief, support activities, and education.



「パッタハのカンタータを聴く」 「起きよ、エルサレム」 カンタータ140(BMW140)

教会暦の一年が終わり、近づく頃、現在の聖書日課のA年には福音書日課としてマタイ二五章一節以下が読まれる。パッタハの時代この福音書は三位一体後第二主日(聖霊降臨後)で数えられることになった。このカンタータは二回だけだったから、このカンタータはこの福音書に基づいて一七三一年に作曲、初演され、四二年に再演されたことだろう。

この福音書日課は教会暦の一年の終わりに、信仰の一年の節目に当たって、主の来臨を待ち望んで目を覚まして自らの信仰の姿勢に注目することを求めている。主の時の永遠を思い、その主のみ手の中での自らのいのちの限りある終わりを思うのもよいのだ。この福音書日課に基づいて一七三一年に作曲、初演され、四二年に再演されたことだろう。



ハは計六曲をオルガンのためのコーラル前奏曲に編曲して出版し、このコーラル前奏曲(BMW645)を冒頭に置いた。その元になったのがこのカンタータ140の第一曲である。カンタータでは、見事に展開され反復される器楽伴奏の間に、合唱がコーラル第一節を各行毎に歌って美しい。これがオルガン曲に整えられたとき、パッタハは結婚式用音楽を書いている(「Hケラ」)と言われる。味わう点の多々あるコーラルであり、カンタータなのである。

第14回ルーテルこどもキャンプ報告
キャンプ長 室原康志
去る8月7日から9日にかけて、広島教会を会場に「第14回ルーテルこどもキャンプ」が行なわれました。全国からキャンプ(小学5、6年生、スタッフ総勢59名)が集められ、充実した時間を過ごすことができました。

たがたの願う平和は、その人にとどまる。(ルカ10:6)
「平和」とはどのようなことを意味するのかを深く考えるために、「戦争」という言葉を聞いた時に何を想像するか?という問いかけからキャンプは始まりました。

感じ取った経験が、これから未来へと成長していく子どもたちの中での足掛かりになることを願っています。また、このキャンプを通して、全国の仲間とのつながりができ、良い体験となったのではないかと思います。

「一つの神の家族として」
(第五十回関西地区教会学校合同キャンプ報告)
幼児から高校生までの子どもたちが集う「関西地区教会学校合同キャンプ」。今年で五十回の節目のときを迎えた。さる八月六日から一泊三日の日程で、「クリエイト月ヶ

今年合同キャンプのテーマは「つながり」であった。主題聖句は「わたしはつながっていない。わたしもあなたがつながっていない。」(ヨハネ15章4節)である。子どもたちやスタッフも含めて、「一つの神の家族」として、共に主を交わっているのだと、まさに実感した第五十回関西地区教会学校合同キャンプであった。



たがたの願う平和は、その人にとどまる。(ルカ10:6)
「平和」とはどのようなことを意味するのかを深く考えるために、「戦争」という言葉を聞いた時に何を想像するか?という問いかけからキャンプは始まりました。

感じ取った経験が、これから未来へと成長していく子どもたちの中での足掛かりになることを願っています。また、このキャンプを通して、全国の仲間とのつながりができ、良い体験となったのではないかと思います。

「一つの神の家族として」
(第五十回関西地区教会学校合同キャンプ報告)
幼児から高校生までの子どもたちが集う「関西地区教会学校合同キャンプ」。今年で五十回の節目のときを迎えた。さる八月六日から一泊三日の日程で、「クリエイト月ヶ



第1回合同キャンプに参加したお二人、木谷勝次郎さんと乾和雄牧師

「となりびと」として

派遣牧師 野口勝彦

震災発生から1年半が経過しました。この間、皆様のお祈りとお支えにより行われていた「ルーテル教会救援」の働きも、被災された方々の「となりびと」として、仙台教会を拠点に継続しています。現在、被災地では「三つの光」が見られませんが、その第一は「復旧から復興の光」です。私たちが被災地で支援活動を行っている、様々な所で、これまでの支援への感謝の言葉を耳にします。先日もある漁協関係者の方から「これまでの支援へのお礼は、私たちがその支援に応えて復興することだ」と言われて



石巻大森仮設団地での夏祭り ボランティアも踊りの輪に



石巻大森仮設団地での夏祭りに参加するルーテル学院大学のボランティア

現地スタッフ・レポート

佐藤文敬



第二の光は、「地域力回復の光」です。私たちは現在、六ヶ所仮設団地で支援活動を行っています。最近、その仮設団地の地域の方々が、震災によって引き裂かれた地域の絆の回復のための働きを始められています。私たちが、現在、支援している「甲の里」プロジェクトもその一つです。

震災から1年半以上がたちました。人が暮らしていた場所から瓦礫が消え、三陸自動車道からボランティアや工事関係者が乗った車が消え、そしてテレビなどから震災のことが消え、非日常的な状況にまだあるはずなのに、ある種の馴染んだ日常になってしまっている。言い換えれば忘れられやすいものになってしまっている。最近、そういうふうに感じます。

そうした中でルーテル教会救援では、コミュニティづくりを焦点を当てた支援を続けています。具体的には、気仙沼市本吉町前浜地区では、昨年からの話を進めていたコミュニティセンター再建プロジェクト

が工段階に入り、2013年4月頃の完成を目指し、9月には造成工事が行われる予定です。また石巻市の牡鹿半島等の10か所の浜では、漁業者が共同で使える倉庫兼作業所の建設プロジェクトを進めています。さらには昨年からの始めた石巻市北上町・河北町の仮設住宅でのサロン活動は、すっかりお馴染みとなり毎月定期的に開催し続けています。

被災者の目下の課題は、相変わらず住む場所をどうするかです。仮設生活が1年を過ぎ、人によっては自宅を再建し仮設住宅から出た人もわずかながらいます。しかし、ほとんどの人たちが次の住処をど

うするかを決断を迫られ続けています。「どうしたらいいんだべね」という言葉も時折聞きます。そうした人たちの声を丁寧に聴きながら、これからは必要とされる支援を続けていきたいと思っています。

2011年6月から2012年3月まで、ほぼ毎週採れたての新鮮な野菜が南相馬市の仮設住宅へ送り届けられました。この活動は、内部被ばくから人々を守ることで、そして放射能不検出の野菜を作っているにも関わらず風評被害に直面する農家さんを守ることで、これら両立を実現するものでした。JLEERからのご支援なくして本プロジェクトを実施することはできませんでした。この場をお借りして、ご支援者の皆様に深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



野菜供給プロジェクトのお礼
2011年6月から2012年3月まで、ほぼ毎週採れたての新鮮な野菜が南相馬市の仮設住宅へ送り届けられました。この活動は、内部被ばくから人々を守ることで、そして放射能不検出の野菜を作っているにも関わらず風評被害に直面する農家さんを守ることで、これら両立を実現するものでした。JLEERからのご支援なくして本プロジェクトを実施することはできませんでした。この場をお借りして、ご支援者の皆様に深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

2012年8月27日
みちのく応援隊 野菜供給プロジェクト担当 桑原



前浜コミュニティセンター建設のための材木乾燥作業

このように被災地は、着実に復興への歩みを始めています。私たちルーテル教会救援も、この歩みに寄り添いながら「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」のみ言葉に従い、2014年3月の支援終了まで被災者お一人お一人の「となりびと」として支援活動をお祈りください。

被災者の目下の課題は、相変わらず住む場所をどうするかです。仮設生活が1年を過ぎ、人によっては自宅を再建し仮設住宅から出た人もわずかながらいます。しかし、ほとんどの人たちが次の住処をど

うするかを決断を迫られ続けています。「どうしたらいいんだべね」という言葉も時折聞きます。そうした人たちの声を丁寧に聴きながら、これからは必要とされる支援を続けていきたいと思っています。



←ふるし雛を作る市ヶ谷教会の青年たち



↑ルーテル学院高校ハンドベル部の皆さんが石巻市の仮設大森第三団地集会所でハンドベル・コンサートを開催

前浜地区コミュニティ再建支援に感謝

気仙沼市本吉総合支所

総務企画課長 齋藤英晴

2012年7月20日に東日本大震災から1年が経過しました。この間、皆様のお祈りとお支えにより行われていた「ルーテル教会救援」の働きも、被災された方々の「となりびと」として、仙台教会を拠点に継続しています。現在、被災地では「三つの光」が見られませんが、その第一は「復旧から復興の光」です。私たちが被災地で支援活動を行っている、様々な所で、これまでの支援への感謝の言葉を耳にします。先日もある漁協関係者の方から「これまでの支援へのお礼は、私たちがその支援に応えて復興することだ」と言われて

このように被災地は、着実に復興への歩みを始めています。私たちルーテル教会救援も、この歩みに寄り添いながら「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」のみ言葉に従い、2014年3月の支援終了まで被災者お一人お一人の「となりびと」として支援活動をお祈りください。

被災者の目下の課題は、相変わらず住む場所をどうするかです。仮設生活が1年を過ぎ、人によっては自宅を再建し仮設住宅から出た人もわずかながらいます。しかし、ほとんどの人たちが次の住処をど

うするかを決断を迫られ続けています。「どうしたらいいんだべね」という言葉も時折聞きます。そうした人たちの声を丁寧に聴きながら、これからは必要とされる支援を続けていきたいと思っています。



同 完成予想図

助ける神はあつた

宮城県漁協石巻市北上町十三浜支所運営委員会

委員長 佐藤清吉



十三浜地区の仮設作業場の建設は、昨年の東日本大震災で喪失した加工場、倉庫の代替施設として、当地域の総ての漁家が必要不可欠な建物として

全く無い事で、漁家の焦りは極限であり、翌年は意気込みで、漁場のガレキ撤去から施設の復興を急ぎましたが、収穫物の加工保管の場が無

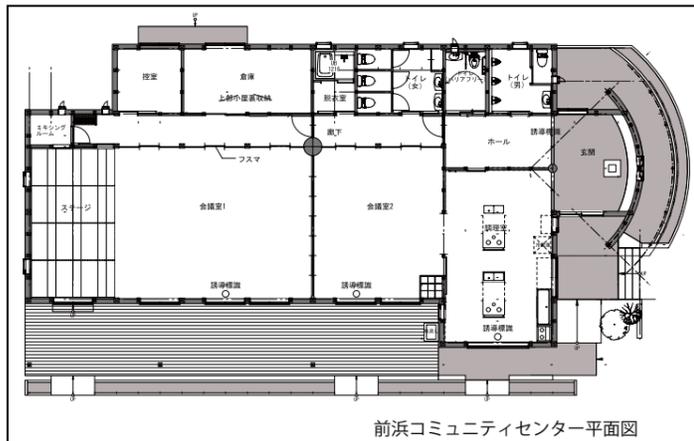
くは、ブランドを自認する十三浜若布の評価を維持する事は無理な話でありです。そこに地獄に仏の如く、当地にその施設の設置の申し入れをして頂いたのがパルシックスさんやルーテル教会さんであり、中の備品を支援下さった生活クラブさんでした。

私たちは此の深く大きな大恩に報いるべき物は何も有りませんが、此の支援の人々の温かい心を、是からの人生の師として、喪失した地域コミュニティの復活と地域経済の担い手としての自覚を忘れる事が無い様に、心して生きて行かねばと日々思いながら暮らして居ります。



東日本大震災で本市が受けた被害は甚大なものでしたが、世界中の方々からのご支援により、一歩ずつ復興に向け歩み始めたところです。

「前浜地域復興会」が早期の再建を目指し主体的に事業を行っており、市といたしまして、一日も早い復興と地域コミュニティの推進に向け取り組んでまいりますので、引き続きご支援賜りますよう、よろしくお祈りいたします。



前浜コミュニティセンター平面図



石巻漁協共同作業所・倉庫

いただいた感謝のことは



ドイツ福音教会 (EKD) からの海外支援

LWFの世界奉仕部のシュロット氏の来日視察(6月7日から13日)と元信徒宣教師グリーテベック氏の協力もあり、6月29日付で前浜コミュニティセンター建設と右巻漁業支援(共同作業所・倉庫)の支援金の申請書をプロジェクト計画書と共にドイツ福音教会(EKD)の災害支援奉仕部(DKH, Diakonie Katastrophenhilfe of Germany)に申請。7月末に受理され、プロジェクト支援の契約書も8月5日に交わしました。なお、EKD/DKHは震災の発生以来、LWFを通してJLEERに支援金を送金してくれている団体です。

取入	日本円
海外教会・協会献金	
ELCA(アメリカ)	40,958,489
CLWR(カナダ)	4,083,000
Diakonie Katastrophenhilfe of Germany (ドイツ)	39,268,558
NCA(ルカエー)	10,438,235
ALWS(オーストラリア)	1,461,530
フランクフルト教区(ドイツ)	14,461,203
その他	36,518,085
計	147,189,100
国内献金	
日本福音ルーテル教会	35,830,737
日本ルーテル教団	10,000,000
近畿福音ルーテル教会	7,000,000
西日本福音ルーテル教会	2,000,000
その他	639,461
計	55,470,198
収入合計	202,659,298
支出	
食糧支援	22,886,745
食料品以外の援助物資・創庫	31,410,162
物資支援関係 合計	54,296,907
石巻・気仙沼	
生活改善支援	786,7917
精神ケア支援プログラム	384,7709
漁業支援	85,71500
気仙沼(前浜)支援	2,764,184
前浜コミュニティセンター建設	10,581,800
地域復興活動経費	4,792,699
アジア学院支援	20,668,693
計	59,094,502
ボランティア活動関係費	
食事代・事務所経費・保険・その他	9,730,729
計	9,730,729
スタッフ関係費	
スタッフ人件費	23,313,071
住宅費	3,359,204
計	26,672,275
広報活動、「ニュースレター」作成	1,939,566
インターネット関係	150,150
報告書作成	0
国内外交通費	5,430,807
事務人件費・経費	5,765,088
計	13,285,611
防災教育・訓練	93,785
計	93,785
会計監査	228,480
計	228,480
支出合計	163,402,289
収支残高	39,257,009

ボランティアレポート

津田沼教会

今年の6月にボランティアに参加くださった日本福音ルーテル津田沼教会の7名の方々の声。

■ 荒浜地区、閑上地区訪問

この地区の建物は、ほぼ全壊。地盤沈下もあり、前日の台風の影響が溜まっており、荒涼とした風景でした。

■ 石巻市大川小学校跡地、石巻、女川、東松島付近訪問

多くの子供が犠牲になった大川小学校の跡地には、破壊された校舎がひっそりとたたずみ、津波に流された子供たちのことを考えると胸が痛みました。

■ お茶っ子サロン参加

(午前) 参加者女性3名+男性1名。参加したある女性は震災後の津波の話を書き切ったように話し始められました。外部の他人だからこそ話し合い易かった面があったのかなと思えました。傾聴のボランティアの役目は大きいと感じました。

(午後) 参加者女性12名。夏見母子ホームから託された千羽鶴でできたタペストリーを持参しました。参加している方々は非常に喜んでおられました。今後、ボランティアの人数は減ると思われませんが、一方、被災者の方々には傾聴等精神的なケアの重要性が増すものと思われれます。



JLERの主な支援内容(2011年3月から2012年7月)

no.	開始日	支援対象	支援内容	支援の概要	支援額
1	2011.4.25	医療法人 くさの実 光が丘保養園	福祉施設の職員用レンタカー提供支援	津波で職員車50台と施設の車3台失った医療法人・光が丘保養園に通勤用レンタカーを提供。	200万円
2	2011.4.28	旧荒砥小学校避難所	全自動洗濯機・衣類乾燥機提供支援	避難所で共同利用する洗濯機・乾燥機を提供。	150万円
3	2011/4/28～ 2012/6/30	南相馬 みちのく応援隊	みちのく応援隊を介して野菜を南相馬市の仮設住宅等に2011年4月から2012年3月まで。	スーパー等が閉鎖していた原発20～30-圏内に位置する南相馬市民へ食料、野菜等をみちのく応援隊からの依頼で支援を行った。	600万円
4	2011.5.6	NPO法人国際ボランティア山形	自立支援プロジェクト 生活支援	被災した人々を雇用し、瓦礫を片付けるCFW事業の事業資金を事業主体の国際ボランティアセンター(IVY)からの依頼で提供。	200万円
5	2011.5.13	アジア学院へ支援	建替支援、地盤調査等費用支援	地震で被害を受けたアジア学院の再建支援。	2,067万円
6	2011.5.20	日本社会福祉会	石巻市渡波・船井地域包括支援センターにレンタカー3台、4ヶ月提供支援	被災地に派遣していた社会福祉士の移動手段として、レンタカーを3台4ヶ月間提供。	106万円
7	2011.5.25	老人保健施設「サトウ」春圃	自動車購入支援(3台)	59名の死亡が出た老人保健施設「サトウ」春圃に自動車購入支援として資金を提供。	100万円
8	2011.6.20	ルーテル学院活動支援	災害後カード(5,000枚配布)支援	精神的ケアを目的としたカードの配布。	137万円
9	2011.8.16	気仙沼・前浜地区自治会	プレハブ工事移転費・設備・工事代支援	避難所の対策本部の事務所、ボランティアの宿泊所としてプレハブ支援。	254万円
10	2011.8.30	ルーテル学院活動支援	ボランティアスタッフ研修会支援	子供グループのボランティアの研修会支援	27万円
11	2011.8～11	気仙沼市 天ヶ沢仮設住宅	取納棚設置支援	仮設住宅37戸に取納用棚を設置。	71万円
12	2011.11.14	石巻市北上町十三浜の漁業者	箱メガネ100個相当の杉板支援	アワビ漁を再開するため箱メガネの材料を漁協の運営委員長からの依頼で提供。	30万円
13	2011.11.28	宮城県漁協宮戸西部支所	船底洗浄ケルヒャー高圧洗浄機支援	津波のヘドロ等で汚れた船を洗浄するための洗浄機を漁協の支所からの依頼で提供。	46万円
14	2011.11.28	気仙沼市前浜地区	FRP資材(ガラスクロス・マット等)船修理プロジェクト	船の早期復旧のため津波で壊れた20隻分相当の修理材料を提供。	49万円
15	2011.12.5	石巻市北上町小学女子バスケット	バスケットの試合用ユニフォームやボール等支援	バスケットの試合用ユニフォームやボール等を支援。	41万円
16	2011.12.29	気仙沼・前浜地区自治会	椿油搾機提供支援	津波で流失した椿油絞機を支援。	97万円
17	2012.3.28	南相馬市「原発事故から命と環境を守る会」	仮設「ビニールハウス」建設支援	原発事故で避難している仮設住宅高齢者による野菜栽培を目的としたビニールハウス建設支援。	80万円
18	2012.3.28	石巻市北上総合支所	北上小・中学院ディズニーランドツアー企画(4/13～15)支援	北上町内で被災した小・中学生40～80人をディズニーランドに連れて行く際の費用の支援。	10万円
19	2012.4.18	宮城県漁協十三浜支所 共同作業所建設支援	水産物資保管施設(共同利用施設)パルニックとの共同支援	資源漁を営を再開するための保管施設建設費用の1棟分を支援。	293万円
20	2012.7.13	宮城県漁協十三浜支所建設支援	水産物資保管施設(共同利用施設)支援	組合員306名の養殖漁業(若布、昆布、ホクテ、カキ、ホヤの5種類)と磯根資源漁を営を再開するための保管施設建設費用支援。	564万円
21	2012.7.30	気仙沼市	本吉町前浜地域集会所施設用地支援	津波で喪失された前浜地域集会所施設再建のための土地取得支援。	995万円

- JLER ルーテル教会救援対策本部 住所：162-0842 東京都新宿区谷砂土原町1-1 日本福音ルーテル教会事務局内 電話番号：03-3260-8631
- ルーテル支援センターとなりびと 住所：仙台市青葉区宮町4-4-39 日本福音ルーテル仙台教会内 電話番号：090-1116-0595 E-MAIL: f-sato@jelc.or.jp
- ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org
- となりびとブログ：http://luteran-tonabirito.blogspot.com/
- となりびとツイッター：@jler_tonaribito